

100%よりも、1%のほうが伝わる。
懇切丁寧な話ほど、わかりにくい。

まじめで一生懸命な人ほど、伝え方が苦手です。

映画の話を懇切丁寧にしてしまって、かえって伝わらなくなります。

むしろ、いいかげんな人のほうが伝わります。

一生懸命頑張っている人ほど話が伝わらなくて、社会ではうまくいきません。

学校優等生が苦勞するという、気の毒なことになります。

道の説明は曲がり角だけ言えはいいのです。

ポイントは、曲がり角です。

まじめな人は、相手に正しく伝えようとして、「途中でローソンがあって、ファミリーマートがあって、セブン・イレブンで曲がるんです」と言ってしまう。

途中の「ローソン」「ファミマ」は、要らないのです。

親切のつもりで、「そのセブン・イレブンは、昔はローソンだったんですよ」という話までします。

この時点で、聞き手は訳がわからなくなるのです。

「そこは息子さんがともと酒屋さんで」とか「おばあちゃんとケンカして」というのは、すべていらぬ話です。

自分の知っていることを全部盛り込んだほうが相手に印象づけられると勘違いしているのです。

伝わるのは、100%のうちの1%です。

100%は1%です。

1%が100%なのです。

私は、映画評論家の淀川長治さんと浜村淳さんに映画の話し方を教わりました。

浜村淳さんも淀川長治さんも、映画のワンシーンしか語っていません。

私もそれに倣^{なま}って、ワンシーンを丁寧に話します。